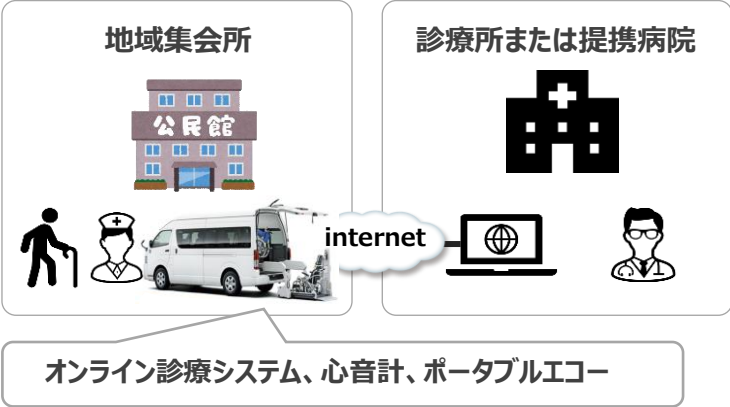
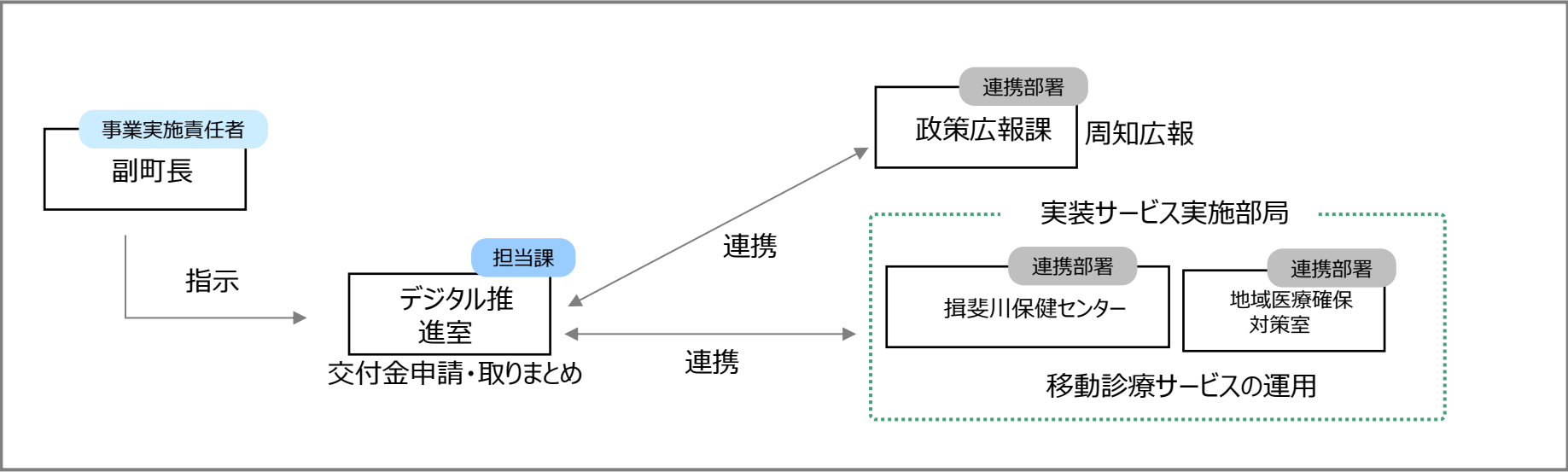


事業概要【医療Maas導入事業】

自治体名	岐阜県揖斐川町	人口	18,658人	事業費	20,488千円
事業概要	揖斐川町は、803km ² という広大な面積を有し、町村合併前の旧5村については中心地区から離れた山間地域のため受診機会が少なく、医療サービスの確保（医師や看護スタッフ等の確保、高齢者の通院の足の確保、診療所施設等の維持）が急務となっている。このためオンライン診療や対面診療、健康指導が出来る医療Maas（移動診療車）を導入し、きめ細やかな医療サービスの提供を行い、患者の早期治療や重篤化防止を図ると共に、オンライン診療による医師の訪問先への移動時間削減を有効活用し業務の効率化を実現する。				
具体サービス	遠隔医療システムを搭載した移動診療車を導入し、オンライン診療や医師が乗車する対面診療、健康指導を行う。 オンライン診療は、医師が拠点の診療所等に駐在しながら、車両に同乗した看護師が患者のサポートをするDtoPwithNモデルで実施する。 【診療サービス】 - 医師が車両に同乗して対面診療を行う。 - 移動診療車が地域集会場等へ出向いてオンライン診療を行う。 【遠隔システムの概要】 - 拠点診療所からの医師による診療。 - 遠隔地の専門医による診療。 - 遠隔医療システムによるデータ転送可能な医療機器を使い、診療精度の向上と早期の疾病予防を図る。		 移動診療車※イメージ 		
主なKPI	【アウトプット指標（活動指標）】 ①移動診療車を使用して診療を行った回数 ②オンライン診療利用者数 ③オンライン健康指導利用者数		【アウトカム指標（成果指標）】 ①移動診療サービスの満足度 ②訪問診療及び往診件数 ③		

推進体制

■ 庁内の推進体制

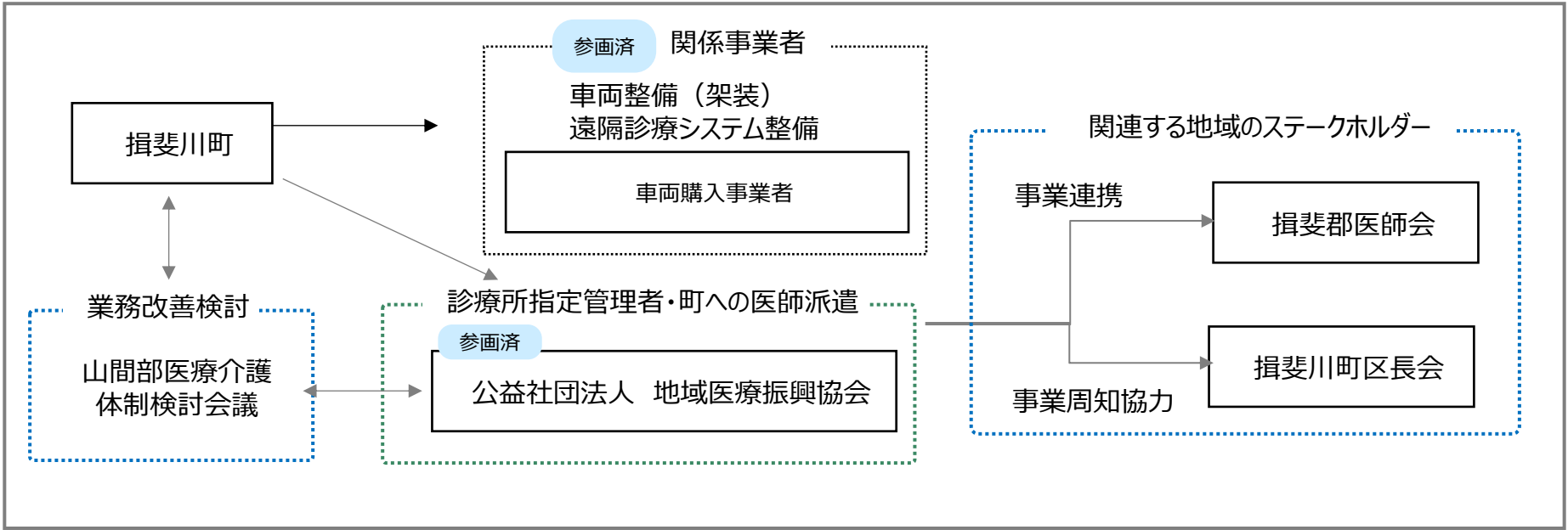


【各課室の役割】

名称	名称	役割
事業実施責任者	副町長	事業全体のマネージメント・進捗管理
事業担当課	デジタル推進室	関連部署との調整、業務フローの検討
連携部署	揖斐川保健センター	運用検討
連携部署	地域医療確保対策室	システムの調達検討
連携部署	政策広報課	広報誌の作成 マスコミへの情報提供

推進体制

■ 事業推進体制



名称	役割
山間部医療介護体制検討会議	
損斐川町	- 事業計画の立案 - 報告書作成をはじめとする事業全般の管理・実行
公益社団法人 地域医療振興協会	- 事業実施に係るノウハウの提供 - サービスの提供
損斐郡医師会	- 医療技術や情報の共有 - 意見交換
区長会	住民ニーズの収集と町への報告

名称	役割
山間部医療介護体制検討会議	公益社団法人地域医療振興協会の医師及び事務担当者と損斐川保健センターの保健師及び事務担当者で構成する本会議において、医療サービス、介護サービス等の業務改善検討を行う

交付金の具体的使途(実装計画に係る事業費内訳)

経費項目	数量	金額(円)
ベース車体購入費	1台	5,500,000
移動診療車架装費	1式	9,735,000
サイドオーニング	1基	379,500
電波改善アンテナ	1基	299,200
車体ラッピングデザイン及び施工	1台分	935,000
安全装置等メーカーオプション	1式	343,640
リサイクル預託金等預かり法定費用	1台分	19,040
自賠責保険料	1台分	18,160
自動車重量税	1台分	24,600
遠隔医療システム導入費(初期費用)	1基	1,650,000
セットアップ費(初期費用)	1基	330,000
ライセンス費(運用費用)	1基	1,056,000
ユーザーアカウント(運用費用)	1基	198,000
	計	20,488,140

医療MaaS導入事業 効果検証結果

事業開始 年度	事業名	交付対象 事業費 (千円)	事業概要	重要業績評価指標 (KPI)	種別	単位	性質	1 年目		2 年目		3 年目		今後の取組の方向性 未達成の理由等
								目標値	実績	目標値	実績	目標値	実績	
R7	医療MaaS 導入事業	20,488	揖斐川町は、803km ² という広大な面積を有し、町村合併前の旧5村については中心地区から離れた山間地域のため受診機会が少なく、医療サービスの確保（医師や看護スタッフ等の確保、高齢者の通院の足の確保、診療所施設等の維持）が急務となっている。このためオンライン診療や対面診療、健康指導が出来る医療Maas（移動診療車）を導入し、きめ細やかな医療サービスの提供を行い、患者の早期治療や重篤化防止を図ると共に、オンライン診療による医師の訪問先への移動時間削減を有効活用し業務の効率化を実現する。	移動診療車を使用して診療を行った回数（地域に出向いた回数）	アウトプット	回	増加KPI	15	20	84		96		導入当初の1月から地域の診療所において移動診療車の展示・体験を行ったことによって外来を利用している患者や地域の高齢者の認識度が高くなったと考えている。また、外来診療に訪れた患者の中で移動手段が確保しづらい人に対し担当の医師から利用を促したことによって得られた結果と考える。利用者から積極的に意見を聴取し事業改善に努めるとともに、エリアや経路について最適化の検討を行いより多くの人が対象となるよう見直しする。また、サービスを利用していない高齢者への周知を継続して行い、幅広い広報活動に努める。
				オンライン診療利用者数（受信者数）	アウトプット	人	増加KPI	24	1	180		198		これまでの診療所内での診療から車両内での診療になると医師との対話がモニター越し、スピーカー越しのオンライン診療に変わることにより戸惑いの声があったため、まずは、新規に導入した移動診療車、車内での診療に慣れてもらうことを優先し、医師乗車の対面診療を中心に行ったためオンライン診療の受信者数が目標値に達しなかったと考える。患者が移動診療車内の診療に慣れ、モニター越しのオンライン診療にも慣れてこれば、医師乗車の対面診療を減らしオンライン診療に切り替えていけると考える。高齢の患者が違和感なく対話できるための機器の設定やレイアウトの最適化を行う。また、同乗する看護師のオンライン診療のサポートスキルの向上を目指す。
				オンライン健康指導利用者数	アウトプット	人	増加KPI	8	1	60		66		これまでの診療所内や保健センター内での健康指導から車両内での健康指導になると医師との対話がモニター越し、スピーカー越しのオンライン診療に変わることにより戸惑いの声があったため、まずは、新規に導入した移動診療車、車内での健康指導に慣れてもらうことを優先し、医師乗車の対面による健康指導を中心に行ったためオンライン健康指導の受信者数が目標値に達しなかったと考える。患者が移動診療車内の健康指導に慣れ、モニター越しのオンライン健康指導にも慣れてこれば、医師乗車の対面での健康指導を減らしオンライン健康指導に切り替えていけると考える。高齢の患者が違和感なく対話できるための機器の設定やレイアウトの最適化を行う。また、同乗する看護師のオンライン健康指導のサポートスキルの向上を目指す。
				移動診療サービスの満足度	アウトカム	ポイント	増加KPI	2.8	4.1	3.5		4.2		実装前の検討段階から高齢者や身体の不自由な方へのユーザビリティを優先して仕様を組み立てたことや、サービス運用前に入念なリハーサルを行ったことで、スムーズな運用ができ、患者（利用者）の満足度を表すアンケートにおいて目標値を上回ることができたと考える。オンライン診療で使用できるエコーや心電計などの医療機器の導入検討を行い、車内でできる診療の幅の拡大や診療精度の向上を目指したい。また、診療に携わる医療スタッフのスキルアップを図り患者（利用者）満足度の向上に努めたい。
				訪問診療及び往診件数	アウトカム	件	増加KPI	1,120	1,504	4,483		4,493		移動診療を行った結果、医師や医療スタッフを効率よく配置することができたため、訪問診療及び往診件数を延ばすことができたと考える。外来を移動診療に切り替えることによって、患者を待つ時間が削減されその時間を訪問診療及び往診に充てられたと考える。町立の各診療所において外来患者が少ない曜日時間帯を移動診療に切り替えて効率よく診療し、訪問診療及び往診の時間に充てられるよう努める。また、オンライン診療の実施を積極的に進め医師の移動時間の短縮を図り訪問診療等に充てられるよう努める。